

1. 件名：確率論的リスク評価（PRA）モデルに関する四国電力株式会社、関西電力株式会社及び九州電力株式会社等との面談

2. 日時：令和3年2月19日（金）13：30～16：40

3. 場所：原子力規制庁 16階A会議室（オンライン開催）

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

検査監督総括課 笠川室長補佐、米林主任検査監視官

技術基盤グループ

シビアアクシデント研究部門 濱口技術研究調査官、小城技術研究調査官、  
和田山技術研究調査官

四国電力株式会社 原子力本部

原子力保安研修所 原子力安全リスク評価グループリーダー 他2名

関西電力株式会社 原子力事業本部

原子力安全部門 安全技術グループ マネジャー 他2名

九州電力株式会社 原子力発電本部

リスク管理・解析グループ 課長 他2名

北海道電力株式会社 原子力事業統括部

原子力リスク管理グループ 担当課長 他3名

日本原子力発電株式会社 発電管理室

技術・安全グループ 担当

三菱重工業株式会社 パワードメイン 原子力事業部

炉心・安全技術部 制御安全技術課 主席主任 他4名

一般財団法人電力中央研究所 原子力リスク研究センター

リスク情報活用推進チーム 上級研究員 他5名

5. 要旨

（1）本年1月21日の面談に引き続き、四国電力株式会社（以下「四国電力」という。）は、配布資料（1）に基づき、伊方3号機のレベル1.5 PRAモデルに関する質問事項について、回答を説明した。

（2）（1）の説明に引き続き、関西電力株式会社（以下「関西電力」という。）及び九州電力株式会社（以下「九州電力」という。）は、大飯発電所3／4号機及び玄海3／4号機のレベル1.5 PRAモデルの質問事項に対する回答について、伊方3号機のレベル1.5 PRAモデルとの違いを説明した。

- (3) 原子力規制庁は、四国電力、関西電力及び九州電力からの回答において、より詳細な説明が必要なものについては、引き続き面談で確認していくこととし、また、伊方3号機のレベル1.5 PRAモデルの適切性の確認結果案を3月12日に開催予定の検査制度に関する意見交換会合にて提示する予定とした。
- (4) 一般財団法人電力中央研究所から、内的事象出・時外部電源喪失（LOOP）起因事象の発生頻度算定のための整理に関する取組状況について説明があり、原子力規制庁は、その整備の進捗状況を確認した。

## 6. 配布資料

- (1) 事業者PRAモデル（伊方3号機）の適切性の確認のための質問事項（その4）への回答（レベル1.5 PRA）（本年1月21日の面談における四国電力資料）  
<https://www2.nsr.go.jp/data/000342343.pdf>